



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099 (226) 5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



# 平和の実現は神を選ぶ生き方から

## キリスト教伝来記念祭で中野司教

8月15日(木)、午前10時30分から鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂で「キリスト教伝来記念祭」が行われ、270人あまりの信者が参列し、聖フランシスコ・ザビエルが伝えたキリスト教の福音を思い起こし、「平和の実現のために信者が取るべき生き方」を確認した。



270人が参列したミサ

永年、ザビエル上陸記念祭として8月に実施されてきた催しを「キリスト教伝来記念祭」と名称変更して初めての実施となった今年の記念祭。名称変更を提案した中野裕明司教は、「ザビエルがもたらしたキリスト教の福音こそが本日の平和」として、ザビエルの日本上陸だけでなく「キリスト教伝来」にスポットを当てた記念祭を開催した。

たいと名称変更の理由を語った。

「教区はあまり平和について考えてこなかったように、戦後74年、戦争を知らない人が多くなり、その悲惨さを伝えることが難しくなってきた。私たちは、戦争を起さざるを得ない仕組、考え方、生き方に取り組みが必要がある。それは富(貧しさからの脱出)を選ぶのか神を選ぶのかという選択にかかっている。迷わず神を選ぶことのできる生き方が送れるよう、ザビエルが伝えた福音を心に刻んでいこう。」

「とメッセージを送った。この日のミサには、薩摩川内市出身の石田望神父をはじめ東京、台湾からの巡礼者を引率してきた3人の司祭も教区で働く司祭たちとともに聖母被昇天のミサを司式した。

連任者会議が行われた。鹿兒島教区内で社会福祉事業に携わっているのは「聖園老人ホーム」や「希望の星学園」(福祉型障害児入所施設)など八つ。これに「鹿兒島きぼうの電話」「とそ子ども食堂」「ゆらいあい」などのボランティアグループに同会議への案内が送付され、これに教区本部司祭などが加わ

り、16人の出席となった。正午から始められたこの日の会議では、それぞれの事業の紹介と中野司教による講話があった。その後、議があり、今後の活動案や福祉連合の立ち上げ、規約について検討がなされた。福祉事業は教会の大切な柱の一つであり、見える愛のわざの実現となる。施設内でのミサのあり方、職員の問題、福祉施設に教区がもつとかわるべきなどの意見が出された。



「ゆらいあい」などのボランティアグループに同会議への案内が送付され、これに教区本部司祭などが加わ

# 奄美宣教再開記念日

9月15日(日) 13時

名瀬聖心教会・奄美観光ホテル

## プログラム

13時 講演 押川壽夫那覇教区名誉司教  
14時30分 記念ミサ(松永正男神父主祭)

17時

祝賀会(奄美観光ホテル)

※ミサ後、記念撮影

## 司教の手紙

みなさん、お元気ですか? 今回は、教区代表者会議のテーマである「教会の3つの柱」のうち第2番目の柱についてお話しします。

第2番目の柱のキーワード(鍵となる言葉)は「交わりと一致」です。交わりと一致は人と人、神と人の交わりを指し、それは、私たちが捧げるミサにおいて見事に実現しています。洗礼を受けて教会の一員となった信者は、神学的表現では、キリストの肢体の一部なのです。聖パウロは言います、「あなたがたはキリストの体であり、一人一人はその部分です。」(コリントの信徒への手紙I、12章27節)と。したがって、神の民の共同体が捧げるこのミサは、キリストの体の行為であるといえるのです。さらに教会は、いろんな表現で、このミサの大切さを強調しています。例えば「(ミサは)

キリスト教生活全体の泉であり頂点です。諸秘跡も、また同様にすべての教会的職務も使徒職の仕事も、すべてには聖体祭儀(ミサ)と結び、これに秩序づけられています。事実、最も尊い聖体祭儀(ミサ)の中に教会の富のすべて、すなわち、わたしたちの過越しであり生けるパンであるキリス

## 主日のミサは信仰生活の源泉であり頂点

鹿兒島教区司教 中野裕明

トご自身が含まれています。」(カトリック教会のカテキズム1324番)さらに「神の生命への交わりと神の民の一致とによって教会が存在するのであって、聖体祭儀(ミサ)はキリストにおいて世を聖とされる神の働きの頂点であり、さらに、人々がキリストを捧げ、またキリストにより聖霊

において御父にささげる礼拝祭儀の頂点です。」(同上 1325番) とここで「信仰生活の源泉と頂点」を私なりに平たく説明してみたいと思います。この源泉と頂点を「初めと終わり」という表現に置き換え、それに「交わりと一致」を重ねて考察すれば「結婚と

れは言うまでもなく、神と人が結ばれ、また、人と人が結ばれる事を祈願し、それを実現させるためです。そこに人間の最高の幸せがあります。最後に、これまで述べてきたように「交わりと一致」こそが、私たち信仰者の幸せの原点と考えますが、人間の社会でこれを実現させることがいかに困難であるかについては、皆さん方が自覚しておられるとおりです。夫婦間の不和、親子間の不和、人種間の不和、国家間の不和等。さらに、私たちは主日のミサへの参加を妨げる様々な社会の要因にも囲まれています。例えば、日曜出勤、親族の介護、地域の行事参加、週末の興行等。私たちの生活のリズムが「主日のミサ」中心のものとなり、私たちの人生がイエス・キリストとともに歩む旅路でありますように。

### 講演会のお知らせ

9月14日は戦後の奄美教会の夜明け  
オーバン神父の「宣教日誌」から振り返る

演題：「宣教日誌」について  
日時：9月14日（土）時間は調整中  
場所：名瀬聖心教会  
講師：松田清四朗神父（コンベンツァル会・「宣教日誌」訳者）  
1947年9月14日、13年間、司祭の不在だった奄美大島に上陸したカプチンフランシスコ会のレイモンド・オーバン神父は聖座とグアムの司教への報告書を書き綴った。そこには当時の奄美大島の様子が書き記されていた。その内容について、訳者・松田清四朗神父が解説する。

### 教区の信徒総数は8907人

### 2018年「教区教勢」まとめ

鹿児島教区の信徒総数が9000人に満たなくなつたのは2015年の統計から。昨年の信徒総数は2017年末の統計（8813人）よりも若干の伸びは見せているものの、亡くなる方がこのところ毎年120人あまりいるのに対して、受洗者数は100人に満たない。求道者数も年々減少傾向にあることからしばらくの間は9000人台に到達するのは難しいと思われる。

信徒数ではなく、信徒の養成に目を向けると教会学校の様子が気になりである。最近の統計では、2015年に幼稚園児・小学生を対象にしていた教会学校に通っていた子どもたちが173人だったのに対し、毎年減少し、今年は127人。教会学校が開かれていない小教区も約半分を占め、教会と子どもたちを取り囲む社会環境の大きな変化が懸念される。これは主日のミサの参列者数を見ても分かること

## 鹿児島教区教勢

2018年12月31日現在

教会名	信徒数		死 亡	信徒の 移 動		主日ミサ参列者	洗 礼		堅 信	求 道 者	教会学校 (幼・小学生)		教会学校 (中学生)		教会学校 (高校生以上)	
	総 数 (内男性)	不 明		転 入	転 出		幼 児	成 人			信 徒	総 数	信 徒	総 数	信 徒	総 数
阿久根	44 (14)	0	2	0	0	35	3	0	1	3	0	3	0	0	0	0
出水	165 (61)	0	2	0	2	30	0	0	5	0	1	24	1	2	0	0
入来	86 (28)	0	3	1	0	28	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
大口	140 (46)	0	2	1	0	25	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
川内	301 (107)	14	2	1	1	70	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0
鹿屋	263 (100)	0	1	1	4	70	2	0	0	0	3	3	0	0	0	0
国分	177 (73)	4	2	1	0	28	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0
志布志	99 (36)	0	1	1	0	20	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0
垂水	32 (15)	26	0	28	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
始良	211 (94)	7	1	1	0	60	2	2	10	1	2	2	4	4	3	3
指宿	93 (31)	0	1	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加世田	120 (59)	0	1	7	0	48	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
鴨池	505 (206)	48	6	9	7	100	2	2	0	0	5	5	0	0	0	0
ザビエル	1022 (331)	185	20	4	8	250	3	9	21	13	29	29	8	8	5	5
谷山	800 (318)	32	10	6	0	135	2	2	3	3	10	10	1	1	0	0
玉里	240 (98)	14	4	0	0	50	0	1	0	0	4	5	3	3	0	0
紫原	255 (94)	105	1	95	5	35	0	2	2	0	2	13	1	1	0	0
吉野	277 (120)	54	3	1	0	40	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
種子島	69 (28)	14	1	0	0	31	0	3	3	0	3	3	0	0	0	0
溝辺	30 (16)	0	0	0	0	15	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
大笠利	526 (216)	54	16	1	0	100	2	9	0	0	0	0	0	0	0	0
小宿	311 (114)	0	1	2	0	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
古仁屋	111 (28)	0	1	0	0	20	0	0	0	1	5	5	2	2	0	0
瀬留	361 (146)	0	9	0	0	70	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0
大熊	573 (255)	8	5	1	0	200	6	5	2	0	16	16	2	2	0	0
古田町	738 (257)	40	3	0	0	150	5	1	0	0	8	8	6	6	4	4
聖心	769 (295)	38	14	2	2	160	4	5	1	0	0	0	0	0	0	0
徳之島	413 (139)	0	12	0	5	50	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0
和泊	176 (46)	3	2	5	7	10	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
計	8907 (3371)	646	124	168	41	1903	34	58	49	27	93	127	28	29	12	12
							92					127		29		12

司 聖職者の数  
教 区 司 祭  
日 本 人  
外 国 人  
修 道 会 司 祭  
日 本 人  
外 国 人  
そ の 他 司 祭  
日 本 人  
外 国 人  
教 区 助 祭  
外 国 人

7 2 0 2 6 7 13 9 16 25 2  
小 教 区 教 会 ・ 修 道 会  
教 区 大 神 学 生  
外 国 人  
日 本 人  
修 練 ・ 志 願 者  
外 国 人  
日 本 人  
修 道 女  
外 国 人  
日 本 人  
巡 回 教 会  
日 本 人  
修 道 士  
1  
0  
29 3 3 0 3 11 9 8 9 2 1 3  
合 女 男 幼 稚 園 幼 稚 園 ・ 学 校  
計 児 児  
女 子 修 道 院  
男 子 修 道 院  
女 子 宣 道 会  
男 子 宣 道 会  
男 子 修 道 会  
巡 回 教 会  
2 1 1  
5 2 2  
2 8 3  
2 3 9 21 17 4 21 8 2 1 41  
大 短 高 中  
男 女 期 合 女 男 合 女 男 学 校  
子 子 子 計 子 子 計 子 子  
1  
5 0 3 6 7 2 5  
3 4 6 7 3 1 2  
1 1 7 0 1 6 8 8 3 1 0 1 3  
研 修 ・ 黙 想 の 家  
そ の 他 の 事 業  
セ ン タ ー  
そ の 他 の 社 会 福 祉 事 業  
そ の 他 の 老 人 福 祉 事 業  
老 人 ホ ー ム  
児 童 養 護 施 設  
保 育 所  
そ の 他  
合 女  
計 子  
6 6  
0 0  
1 0  
3 1 1 7 8 3 4 2

# 片柳神父からマザーテレサの愛を学ぶ

## 恒例の教区カトリック幼稚園教職員研修会

夏休み恒例の「カトリック幼稚園教職員研修会」が7月24日(水)と25日(木)の2日間、霧島市のホテルで開かれた。県内のカトリック幼稚園で働く教職員の質の向上と親睦を図るために開かれているこの研修会も今年で50回目。今年はこの記念すべき研修会(テーマ「世界で一番たいせつな



マザーテレサの愛の伝え方を学ぶ

あなたへマザー・テレサに学ぶ神さまの愛」の講師には、イエズス会の片柳弘史神父(宇部教会主任司祭)が招かれた。

開会に先立ち140人あまりの幼稚園教職員に挨拶した頭島光神父(カトリック幼稚園協会会長)は、「子どもたちのために教育の質の向上を目指すには、私たち教職員のスキルアップが不可欠」と説き、その上でマザー

のもとで働き、マザーに背中を押されて司祭への道を歩んだ片柳神父(48歳)を紹介した。

片柳神父は24日午後、二回の講話でマザーとの出会いとその人となりから、出会う人に「愛されている」と感じさせてくれるマザーには「あなたに会えて嬉しい」という笑顔がある「大切なものに出

会ったという輝く瞳がある」「あなたのことを知っていたというじつと聞いてくれる姿勢がある」「手を握りぬくもりを伝えてくれる」などの接し方の特徴がある。

まるで「マザーは出会う人たちの中におられるキリストを見つめているようだ」と説明した。

その後、片柳神父はマザーの言葉を紹介しながら、具体的に愛について語り、子どもたちと向き合う時は

## 平和願って街中を行進

神父さんもお坊さんも神主さんも



鹿兒島の様々な宗教団体が「共に生き、共に和する」をモットーに2011年5月に設立された「鹿兒島県宗教者懇和会」が主催する「8・6平和巡礼」原爆の火」とともに」が8月6日(火)午後、鹿兒島市であった。

この日、平和巡礼に参加したのは、神道、仏教、キリスト教など様々な宗教、宗派の指導者たちと信者たちの約80人。鹿兒島市の天文

館や山形屋前などで「子どもたちの笑顔のために」と募金活動を行った後、ザビエル教会で開会式を開き、その後、平和巡礼を実施した。

巡礼団は、ザビエル教会において中野司教の導きでアシジの聖フランシスコの「平和を願う祈り」を唱えた後に出発。ザビエル教会から高見馬場、いづろ、山形屋前などを経由して西本願寺、照国神社を巡り、その後、照国神社横の探勝園で原爆の火の点火式を行った。またその後は平和コンサートも実施された。

主の天使のお告げを受けて、ヨセフはマリア様とイエス様と共にエジプトに行きます。このことが事実であったかは分かりませんが、福音記者マタイは「わたしは、エジプトからわたしの子と呼ばれた」という預言の成就である(2・15)としています。確かに、ホセアの預言には、「まだ幼かったイスラエルをわたしは愛した。エジプトから彼を呼び出し、わが子とした。」とあります(ホセア11・1)。しかし、聖家族がエジプトに避難した背景に

は、列王記の「ソロモンはヤロブアムを殺そうとしたが、ヤロブアムは直ちにエジプトの王シシャクのもとに逃亡し、ソロモンが死ぬまで、エジプトにとどまった。」もあるように思えます(列王記上11・40)。ご存知の通り、嘗てイスラエル王国は南と北に分裂しました。ヤロブアムとは北王国の最初の王です。

マタイでは「聖家族はヘロデが死ぬまでそこ(エジプト)にいた」と書かれています(2・15)。ということ、マタイはヤロブアムとイエス様をかけていると

タイの巧みさを読み解けます。話は変わって、イスラエルが南北に分裂した歴史的理由を簡単に話します。ソロモン王とはダビデの息子です。彼の時代にイスラエルが最も栄えたと言われている。ソロモンは商業活動の振興と発展を背景として、贅の限りを尽くしました。これを支えるための過酷過ぎる租税と強制労働によって、北王国ではソロモンに対する不満が募っていききました。その結果、ダビデ王朝の支配からの分

離を求める機運が高まったのです。こうした折、エフライム人ヤロブアムがソロモンに対して謀反を起こしたのですが、鎮圧されたため、ヤロブアムはやむなくエジプトへ逃亡することになります。しかし、ソロモンの死後、北王国の諸部族たちはダビデ王家との関係を断ち切り、ヤロブアムを王としたのです。まさに彼はイスラエルの歴史の転換期にあった人物であると言えるのです(列王上11・26、28、40)。

- 【司教日程】8日指宿教会、15日奄美宣教再開記念ミサ、16日教区の日ミサ、20日臨時司教会議(東京)、23日司教評議会及び教区司祭会、24日コンベンツ
- 【祈祷の使徒会】  
世界共通 海洋の保全  
日本の教会 すべての被造物の尊重
- 1日(日) 年間第22主日
  - 3日(火) 被造物を大切に祈る世界祈願日
  - 6日(金) みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
  - 8日(日) 年間第23主日
  - 14日(土) 七田和二郎神父命日(1989年)
  - 15日(日) 年間第24主日(司教座教会献堂記念日)
  - 16日(月) 奄美宣教再開記念日ミサ・聖心教会・13時
  - 21日(土) 聖マタイ使徒福音記者
  - 22日(日) 年間第25主日
  - 23日(月) オリーブの会・教区本部・14時
  - 23日(月) 朴昶奎神父叙階記念(2016年)
  - 23日(月) 世界難民移住移動者の日(献金)
  - 23日(月) 司教評議会・14時・教区本部
  - 24日(火) 李秉徳神父叙階記念(2017年)
  - 24日(火) ダニエル神父命日(2003年)
  - 24日(火) バルビニ神父命日(2004年)
  - 27日(金) コンベンツ・教区本部・10時
  - 27日(金) メニッペン神父叙階記念(1959年)
  - 29日(日) 松永正男神父叙階記念(聖ビンセント)
  - 29日(日) 年間第26主日
  - 29日(日) ティエン神父霊名(聖ガブリエル)

短歌

吉野教会 中江 均  
赤いバラ祭壇飾り柩埋  
め先立つ連れに添い送  
るミサ  
竜宮が海から空へ移り  
しや亀さん代りハヤブ  
サ二号

**+KABAYAN SEKSYON+**  
**Ang Karukhaan ni Kristo**  
**Nagpapayaman sa Atin**

Sa pagninilay ni Papa Francisco sa kusang-loob na pagpili ni Kristo na maging mahirap, tinutukoy ng Santo Papa: "Nang piliin niyang maging dukha, hindi hinangad ni Hesus ang karukhaan para sa ganang sarili nito ngunit tulad ng sinabi ni San Pablo 'upang sa kanyang pagiging mahirap kayo ay managana.' Hindi ito paraan lamang ng pagsasalita o pagtawag-pansin. Bagkus, ito ang buod ng katuwiran ng Diyos, ang lohika ng pag-ibig, ang lohika ng pagkakatawag-tao at ng krus."

Isinaad ni San Pablo na tayo ay pinalaya ni Kristo hindi sa pamamagitan ng kanyang kayamanan kundi ng kanyang karukhaan. Kaya't itinatanong ni Papa Francisco: "Ano itong karukhaan na sa pamamagitan nito'y pinalaya at pinayaman tayo ni Kristo? Ito ang paraan ng kanyang pagmamahal sa atin, ang kanyang pakikipagkapwa, gaya ng pakikipagkapwa ng Mabuting Samaritano sa lalaking naghihingalo sa tabi ng daan (Lu 10:25)."

"Nang sabihin ni Hesus na pasanin natin ang kanyang pamatok na magaan' hinihiling niya na tayo'y pagyamanin ng kanyang karukhaan na magpapasagana" at ng kanyang kayamanan na karukhaan, upang makibahagi sa diwa ng pagiging anak at kapatid, upang maging mga anak sa katauhan ng Anak." Bilang pagtatapos, sinabi ni Papa Francisco na "masasabi natin na mayroon lamang isang tunay na uri ng karukhaan: ang hindi pamumuhay bilang mga anak ng Diyos at mga magkakapatid kay Kristo."

Mahirap unawain ang mga salitang ito kung hindi natin titingnan sa mata ng pananampalataya. Mahirap tanggapan ang 'karukhaan' lalong-lalo na kung salat sa anumang bagay na pangangailangan sa araw-araw. Subalit ang mga pangako ng Panginoon Hesus ang siyang magbibigay sa atin ng pag-unawa sa buhay ng karukhaan para tayo ay payamanin niya.

**Katesismo sa Para sa mga Dukha (Fr. Dino Orolfo)**

会と催し 9月

- 1日(日) 年間第22主日
- 3日(火) 被造物を大切に祈る世界祈願日
- 6日(金) みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
- 8日(日) 年間第23主日
- 14日(土) 七田和二郎神父命日(1989年)
- 15日(日) 年間第24主日(司教座教会献堂記念日)
- 16日(月) 奄美宣教再開記念日ミサ・聖心教会・13時
- 21日(土) 聖マタイ使徒福音記者
- 22日(日) 年間第25主日
- 23日(月) オリーブの会・教区本部・14時
- 23日(月) 朴昶奎神父叙階記念(2016年)
- 23日(月) 世界難民移住移動者の日(献金)
- 23日(月) 司教評議会・14時・教区本部
- 24日(火) 李秉徳神父叙階記念(2017年)
- 24日(火) ダニエル神父命日(2003年)
- 24日(火) バルビニ神父命日(2004年)
- 27日(金) コンベンツ・教区本部・10時
- 27日(金) メニッペン神父叙階記念(1959年)
- 29日(日) 松永正男神父叙階記念(聖ビンセント)
- 29日(日) 年間第26主日
- 29日(日) ティエン神父霊名(聖ガブリエル)

# ウガンダの旅2018 ナフリラちゃんとの対面⑧

谷山教会信徒 岩崎正幸

ワールド・ビジョン・ジャパンを通じて貧しい国の子どもの支援を続けているラ・サール学園教諭の岩崎正幸さんは、昨年夏、支援している子どもがいるウガンダを訪問した。これは生徒のために執筆した「ウガンダの旅2018」の8回目。

7月31日、ホイマのホテル2泊目。夕食で、ビールを注文。昨日はあまりに夕食が遅かったので、休肝日(お酒を飲まない日のこと)にしたのだ。クラブという銘柄で、50000シリング、およそ1700円くらいである。カンパラで飲んだナイル・スペシャルの半分以下の値段。ホテルの格がだいぶ違う。夕食のとき、Kさんと隣りあわせ。Kさんのチャイルドも明日のナラウエヨ・キシータ地区。おみやげの話をしていたら、Kさんがたくさん持つてきすぎたらしく、少しもらつてくれないうかという。特に、自分用の予備の靴を持ってきたけど、使いそうもない



ナフリラちゃんにプレゼントを渡し、写真の説明

からおみやげにどうぞとおっしゃる。実は、訪問先にて作業などがあり、汚れてもいいような服と履き物を、とあらかじめWVJ(ワールド・ビジョン・ジャパン)から連絡があったので、Kさんはちゃんと用意していたのだ。Kさんのチャイルドは男の子だから、おみやげには使えないと。ありがたく頂戴することに。旅行準備のとき、自分もおみやげに靴を、と思つてはみたのだが、サイズや好みもわからないし、荷物になるからやめたのだ。事前の案内で、服や靴は貴重品だから喜ばれるとはわかつていたのだが、それに、今日のキルヤンガ地区の交流のようすを見て、自分を持つてきた分のおみやげだけでは少ないかなと思つたので、本当によかった。

8月1日、朝5時過ぎに起床。5時40分ごろ、いきなりスピーカーで石焼きいものようなアナウンスが、これがあのアザンなのか、と気づく。昨日ホテルへ入る道路の反対側に見つけたイスラムの学校のところ

あるモスクに違いはない。あたりはまだ真つ暗。6時半朝食、それが済むころまだスピーカーからの声が。朝の礼拝、長いのだな。

7時50分に出発。1時間ほどかけて支援地へ。今日と明日はナラウエヨ・キシータ地区の訪問。まずは地区の事務所へ。事務所に着く前から雨が降りはじめ。事務所裏のテントで、この地区の支援の説明とこどもたちから感謝の言葉。雨が激しくなつてきて、「このまま降り続けたら、チャイルドとの交流はどうなってしまうのだろうか」と心配になる。でも、説明が終わるこ

ろ、雨はきれいにあがつた。そして、陽が出る。乾季のはじめは、乾季なので洗濯物もすぐ乾くと聞いていた。交流場所のキヌンダ小学校に着いたときは、もう芝生まで乾きかけていた。

いよいよナフリラちゃんとの対面。毎年成長記録は届くので、こちらはナフリラちゃんの顔はわかつていた。こちらからも写真を何回か送っている。「わかつてくれるかな」と思つたが、直接会うのはやはり印象が違ふ。ナフリラちゃんは、写真などから想像していたよりは、ずつと小柄であった。15歳なのだが日本の女子高生とはだいぶ違って見える。栄養状態の関係もあるのかもしれない。兄弟姉妹たちも一緒に来るかと思つていたら、お母さんとおじさんと3人だけで来た

という。ここから15kmの道を歩いて来たそう。お父さんが早くに亡くなつて、知つていた。でもおじさんが一緒なのは予想外だった。どうやら兄弟姉妹の中には、おじさんのこどもたちも含まれている。このあたりでは親戚のこどもたちも兄弟姉妹と数えられるらしい。そういえば、新約聖書の中にも、イエスの兄弟姉妹という記述があつて、それはイエスのいとこたちを指す、と伝統的に解釈されている。さつそく、おみやげを渡す。まずはTシャツ。それからノート、鉛筆、ボールペン、家族の写真や、アルバム。一つひとつ説明しながら渡していくのだけど、なんとナフリラちゃんは一回来が王様から何かを受け取るように、プレゼントを

受け取るではないか。本物の王様なんて見たことないけど、映画や劇で見ると、なシーン。「そんなことしないで」と言いたいのだが、うまく言葉にできない。もう、手振りや身振りで伝えるしかなかった。ところで、ナフリラちゃん、ずつとそれが名字かと思つていた。どうやらこのあたりの人たちは、名字はないのだ。そう。いわゆるファミリーネームは父親の名前を使うのだという。このあたりも新約聖書の世界だ。ヨセフの子イエスという言い方と同じ。ナフリラちゃんももうひとつフロレンスという名前をもつていて、それは洗礼名(クリスチャンネーム)。ずつとフロレンスがファミリーネームだとばかり思つていた。他のチャイルドたちもみんな現地の名前と洗礼名をもつていて。

## KJJP (鹿兒島正義と平和協議会) 通信 9月号

危機に対する聖書の眼差し 前回の話は、巨大地震の到来と行政の機能不全という困難ともいふべき2040年問題に対して、専門家が「行政担当者も住民も「我が事」として取り組んでい

ない」というものでした。これをよく示すのが以下の事例です。

巨大地震について国民の8割前後が「近い将来発生すると思う」と回答しているのに対し、家具の転倒防止を行っている人は3割未満であること。また専門家が行政は、危機に対するこ

ろ、雨はきれいにあがつた。そして、陽が出る。乾季のはじめは、乾季なので洗濯物もすぐ乾くと聞いていた。交流場所のキヌンダ小学校に着いたときは、もう芝生まで乾きかけていた。

という。ここから15kmの道を歩いて来たそう。お父さんが早くに亡くなつて、知つていた。でもおじさんが一緒なのは予想外だった。どうやら兄弟姉妹の中には、おじさんのこどもたちも含まれている。このあたりでは親戚のこどもたちも兄弟姉妹と数えられるらしい。そういえば、新約聖書の中にも、イエスの兄弟姉妹という記述があつて、それはイエスのいとこたちを指す、と伝統的に解釈されている。さつそく、おみやげを渡す。まずはTシャツ。それからノート、鉛筆、ボールペン、家族の写真や、アルバム。一つひとつ説明しながら渡していくのだけど、なんとナフリラちゃんは一回来が王様から何かを受け取るように、プレゼントを

受け取るではないか。本物の王様なんて見たことないけど、映画や劇で見ると、なシーン。「そんなことしないで」と言いたいのだが、うまく言葉にできない。もう、手振りや身振りで伝えるしかなかった。ところで、ナフリラちゃん、ずつとそれが名字かと思つていた。どうやらこのあたりの人たちは、名字はないのだ。そう。いわゆるファミリーネームは父親の名前を使うのだという。このあたりも新約聖書の世界だ。ヨセフの子イエスという言い方と同じ。ナフリラちゃんももうひとつフロレンスという名前をもつていて、それは洗礼名(クリスチャンネーム)。ずつとフロレンスがファミリーネームだとばかり思つていた。他のチャイルドたちもみんな現地の名前と洗礼名をもつていて。

プを埋める方策を提示してはいますが、どれも教科書的で実効性に乏しいです。つまり、専門家も行政も住民同様意識と行動の間にはギャップがあります。そこで見方を変えて、2040年問題を巨大地震と少子高齢化がもたらす結果、すなわち、「貧困化の危機」に焦点を当てて考えてみます。そうすることで、わたしたちの日々の生活に關わる身近な問題として2040年問題を受け止めることができるようになってきます。

貧困化の危機については、日本の相対的貧困率の高さを知ると理解できます。日本は経済大国といわ

れていますが、相対的貧困率から見れば、日本は先進国のうち、アメリカに次いで2番目に貧困層の厚い国です。2015年の厚生労働省の国民生活基礎調査によると、月10万円で生活する相対的貧困層は15.6%を数え、6人に1人が貧困に苦み、この状態が長く続いていることがわかります。

仕えることはできない(マタイ6・24)ということばが素直に心に入つてきます。目からうろこが落ちたような感じ。このように見ると、2040年問題に対する行政担当者や専門家たちが語ることは、被害や損害を最小限に食い止めることに躍起になるあまり、その原因を究明することには無関心であるとかわかってきます。これに対して、危機の到来を「産みの苦しみの始まり」(マルコ13・8)とする聖書の見方は、わたしたちを富の呪縛から解放し、新しく生き直す道を開いてくれます。パウロは次のように述べます。「わたしたちは苦難さえ誇りとしています。苦難は忍耐を、忍耐は試練に磨かれた徳を、その徳は希望を生む」ということをわたした

ちはずっといます(ロマ書5・3)。パウロによれば、産みの苦しみとはキリストとともに死にキリストとともに生きることに他なりません。それ故、キリスト者にとつて2040年問題は、キリストに近づくよい機会であるといえます。このように受け止めるなら、その対処の仕方やとるべき行動については、信仰が答えを出すと思われ、それを糧に日々取り組んでいきます。(正義と平和協議会会員 上坪憲治)

**司教座教会献堂記念日**  
 - 9月16日 (月) 10時 -  
 鹿兒島カテドラル・ザビエル教会

プログラム  
 10:00 ミサ (ダイヤモンド・金祝聖職者祝い)  
 11:00 茶話会

▼社会問題の分かち合い (毎月第三土曜日) 日 時: 9月21日 (土曜日) 13時~16時 場所: 教区本部 内容: 原発・改憲・沖縄問題についての情報交換 その他